

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：感染症予防費

事業名 結核重点地域対策事業費（国補）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

健康福祉部感染症対策推進課 感染症対策第二係 電話番号：058-272-1111（内 4655）

E-mail：c11237@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 698 千円（前年度予算額：698 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	698	118	0	0	0	0	0	0	580
要求額	698	118	0	0	0	0	0	0	580
決定額	698	118	0	0	0	0	0	0	580

2 要求内容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

県内では290人の結核新規患者が発生しており、罹患率も14.6と全国平均（11.5）に比べて高い状況にある（R1）。国際的にも日本は結核の「中まん延国」とされており、結核の制圧に向けて継続した努力が求められている。

結核のまん延を防止するために必要な対策の一つとして、結核感染リスクが高い高齢者、並びに医療・介護従事者、結核予防業務従事者に対し、結核予防知識の普及啓発を行うことがあげられる。

（2）事業内容

感染症法による結核予防業務と併せて、地域の実情に応じた重点的な結核対策事業の実施

○TBメディカルセミナー（県内3保健所）

（公財）結核予防会等から講師を招き、医師及び医療従事者等を対象に、結核についての最新情報や専門知識及び結核院内感染防止対策に関する講演会を開催する。医師及び医療従事者の結核に対する認識を深めることで、結核患者に対する迅速な対応が期待でき、結核患者の早期発見・早期治療につなげる。

○高齢者又は介護者研修会（県内6保健所）

県内新登録患者の約7割以上が65歳以上の高齢者であることから、高齢者又は介護者を対象として、結核知識の習得・予防知識の高揚を図る。

- 結核後遺症者健康呼吸器教室（県内1保健所）
結核後遺症者に対し、結核の再発防止、予防のための健康管理指導、肺機能検査、健康相談等の教室を開催する。
- 日本語学校又は監理団体等研修会（県内2保健所）
近年、増加傾向にある外国出生者の結核の中でも、特に集団感染に繋がりがやすい日本語学校や技能実習生の結核を早期発見するため、日本語学校や技能実習生監理団体等の関係者を対象として、結核知識の習得・予防知識の高揚を図る。
- 結核予防技術者等養成研修
結核の最新情報を収集し、当県の結核対策に役立てるため、日本放射線技師学術大会に職員（診療放射線技師）を派遣する。

（3）県負担・補助率の考え方

県10/10

高齢者又は介護者研修会に係る予算は国1/2

（4）類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額(千円)	事業内容の詳細
報償費	310	研修会講師報償費
旅費	187	業務旅費、講師旅費
需用費	74	事務消耗品費、研修会会議費
役務費	102	郵便代、結核菌送料
負担金	25	放射線技師学術大会登録料
合計	698	

決定額の考え方

4 参考事項

（1）各種計画での位置づけ

岐阜県保健医療計画

岐阜県感染症予防計画

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

結核感染リスクが高い高齢者、並びに医療・介護従事者、結核予防業務従事者に対し、各層に応じた結核予防知識を普及する等により、感染拡大の防止を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
人口 10 万人当たり 結核罹患率（暦年）		15.6 (H29)	14.0 (H30)	14.6 (H31)	10.0 (R3)	68.4%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

- (1) TBメディカルセミナー（医療従事者向け）…3 保健所で実施
合計 156 人参加
- (2) 高齢者・介護者研修会…5 保健所で実施（7 回開催）
合計 241 人参加
- (3) 結核後遺症者健康呼吸器教室…1 保健所で実施
8 人参加

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

TBメディカルセミナーでは、公益財団法人結核予防会結核研究所等の講師により、院内感染予防や多剤耐性結核等に関する最新の情報を得る研修を開催した。

高齢者を対象とした研修会では、高齢者が結核患者とならないために普段から意識すべき知識の普及等を行った。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	戦後、国内の結核感染率は大きな改善を遂げてきたが、依然として県内では290人の新規患者が発生しており、罹患率も14.6と全国平均に比べて高い状況にある（R1）。国際的にも日本は結核の「中まん延国」とされており、結核の制圧に向けて継続した努力が求められている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	結核罹患率は徐々に減少傾向にあるが、昨年微増した。低まん延国の定義である罹患率10以下となるよう、より一層の努力が求められる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価) ○	近年、東濃地域の結核罹患率が大きく改善し、県内格差は縮まっている。更なる罹患率の減少のためには県内全体での対策の浸透が必要となるため、隔年で地域を交替し研修を開催するなど、全県的な事業実施に努めている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>今後は高齢化の進展に伴う高齢者と、外国人労働者等の増加による外国出生者の発病がさらに増加することが危惧され、また治療中断等による多剤耐性結核菌の発生や重度の合併症など、治療の困難な事例の増加が予想される。</p>
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか。 <p>今後更なる増加が危惧される高齢患者及び外国出生患者を中心として、他の結核対策事業と相俟って、早期発見、早期治療、並びに二次感染の防止を徹底していく。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	